

2007年G8サミット
オルタナティブ・サミットでのワークショップ報告

2008年TICADに向けたアフリカのためのパートナーシップ

～アフリカ、日本、世界の市民社会は、アフリカにおいて貧困者志向の政策を達成するためにどのような効果的パートナーシップが構築できるか～

2007年6月6日
ニコライ教会、ロストック（ドイツ）



主催：Civic Commission for Africa（アフリカ市民委員会）、TICAD市民社会フォーラム（TCSF）
<http://www.ticad-csf.net>

議長：Joseph Ssuuna（アフリカ市民委員会運営委員、PELUM）

参加者：ヨーロッパから 13 名、日本からは 12 名（内新聞記者 1 名）、アフリカから 3 名、アメリカから 1 名。

オープニング・スピーチ

【大林稔（TCSF）】～TICAD とは？アフリカにとっての 2008 年の重要性～

- ◆ TICAD の話に入る前に、まずは日本とアフリカとの関係について紹介したい。その上で、2008 年の TICAD（アフリカ開発会議）の意義を紹介する。
- ◆ 日本の ODA におけるアフリカの割合は小さいが、アフリカから見ると日本は最大ドナーの一つである。しかし、経済的な関係は希薄で、南アフリカを除いて日本とアフリカ諸国の貿易関係は極めて限定的である。日本に暮らすアフリカ人の数も少ない。
- ◆ 日本の一般の市民から見てアフリカは非常に遠い存在であった。しかし、最近になって、アフリカへの関心は急速に高まっている。特に、2005 年が起点となったと考えられる。ホワイトバンドの運動は日本にも到来したが、これが若者の関心を惹きつけた。また、日本の一般市民のアフリカ理解に重要な役割を果たしてきた「アフリカン・フェスタ」という外務省主催のイベントの入場者は年々増え、今年はずいに 7 万人近くに達した。
- ◆ TICAD について紹介する。TICAD は、1993 年に東京で開催されたアフリカ開発国際会議以降、5 年に一度日本で開催されてきた。アジアとアフリカ間のパートナーシップを促進する目的を持ち、来年 5 月末に第 4 回目の TICAD が G8 サミットの 1 ヶ月前に開催される。
- ◆ 日本の市民社会はこれまで TICAD への働きかけを行ってきたが、アフリカ市民社会と共に、第 4 回 TICAD への働きかけをもっともっと促進していかなければならない。そこで、TCSF としては、4 月に結成された「アフリカ市民委員会」の活動を支援しつつ、TICAD プロセスへの効果的働きかけを実施しようとしている。
- ◆ 今回のワークショップには、ヨーロッパやアフリカ、日本の市民社会関係者が多数参加している。忌憚のない活発な議論が行えればと考えている。

2008 年 TICAD に向けたアフリカ市民社会からの提案～パートナーシップに寄せて

【Joseph Ssuuna (Civic Commission for Africa)】

- ◆ このワークショップは恐らくアフリカ人が議長を務める唯一のワークショップと思われる。「アフリカ」が議題になっているサミットであるにもかかわらず、アフリカ人の主体的関与は見られない。今までアフリカ開発のことはドナーが一方的に決めてきた。これではいけない。このワークショップはその意味で非常に重要である。アフリカ市民委員会の試みは、アフリカ市民社会が主体となってアフリカ開発の提言を行うことにある。
- ◆ 既に述べた通り、ドナーはアフリカのことを一方向的に決め付けてきたが、「アフリカは寝ている (Africa is not sleeping)」わけではない。アフリカは急速に変貌しつつある。例えば、2 年前だとしたら、アフリカ市民委員会のようなものを作るのは不可能であった。しかし、今

はできる。我々が言いたいのは、「アフリカが前に進ませてほしい (Let Africa go ahead)」ということである。アフリカ連合も最近だから出来たのだ。アフリカ諸国の民主化が進みつつあるからこそのことである。

- ◆ 「アフリカは問題を乗り越えられるのだ (We can overcome problems)」という新しいイメージを具現化していかなければならない。いつまでも卑下してはならない。日本にだって、ヨーロッパにだって社会問題はあるはずだ。貧困問題も。日本やヨーロッパには、それを支える手法がある。我々にもあるはずなのだ。他方、その人々をより脆弱化させる手法もある。そのような手法を採らないように気をつけなければならない。
- ◆ アフリカはあなた方が持っているキャパシティが必要だ。世銀 IMF が長い間我々に押し付けてきたようなものではなく。我々は、他の大陸の人々とパートナーとして交わりたい。「学生」としてではなく、パートナーとして。日本とヨーロッパと同じように将来の繁栄を分かち合いたいのだ。

アフリカとドイツ市民社会のパートナーシップによるヨーロッパ議会への提言書づくり

【Anke Kurat (Venro/Germany)】

- ◆ 本年はドイツがヨーロッパ議会の議長国であったために、ドイツの市民社会連合である VENRO としては、EU presidency project "Prospects for Africa - Europe's Policies" を組織化し、ヨーロッパのアフリカ政策への提言をアフリカ市民社会と共にまとめ、アドボカシー活動を展開した。詳しくは、www.prospects-for-africa.de を見てほしい。
- ◆ ヨーロッパとアフリカの 27 団体が集まり、この提言を作った。開発援助についてだけでなく、貿易や安全保障、農業などの分野についても提言を行った点が新しいと言える。
- ◆ 提言を作成した後は、ヨーロッパ議会で発表を重ねたり、公開書簡を送る運動をしたり、ニュースレターを発行したりという手法で、この提言を具現化する努力をしている。
- ◆ 次の議長国はポルトガルなので、ポルトガル市民社会との連携も重要であろう。

2008 年 TICAD に向けて日本の市民社会は何をしているか？

【船田クラークンさやか (TICAD 市民社会フォーラム)】

- ◆ 議論が重要だと思われるので、簡単に済ませる。パワーポイント通り、2008 年 7 月の洞爺湖 G8 サミットに至るまでに、第 4 回 TICAD が開催される。洞爺湖サミットの主要課題は、「気候変動とアフリカ」という噂があるが、そうなれば市民社会としては歓迎したいが、現状では確実なことかどうか明らかではない。いずれにせよ、サミット直前に開かれる第 4 回 TICAD では、アフリカ開発が主要議題として取り上げられるわけであり、今からアフリカ、国際、日本の市民社会の関与が重要である。この機会を我々としてどう活かしていくのか、今後コンセンサスを作っていければと思う。
- ◆ 日本の市民社会側の動きとしては、洞爺湖 G8 サミットに向けては、「2008 年 G8・NGO フォーラム」が立ち上がっている。これには、90 近くの日本の NGO が加盟している。今日は、その関係者も多数参加している。一方、TICAD に向けては、アフリカで活動する日本の NGO が集ま

って「TICAD IV・NGO ネットワーク (Tnnet)」が立ち上がっている。TICAD 市民社会フォーラムはその事務局を務めている。

- ◆ TICAD に向けた市民社会のアクションとしては、本年 10 月末に、アフリカの市民社会を招いて、今回の「オータナティブ・サミット」のように「Civil TICAD (市民による TICAD)」を開催する予定である。また、第 4 回 TICAD 本番直前にも、このような市民によるイベントを開催地の横浜にて開催することも想定している。
- ◆ したがって、今回、オータナティブ・サミットをホストしたドイツ市民社会の経験から学びつつ、アフリカ市民社会とどのような連携が確立できるか糸口を見つけたいと考えている。
- ◆ 最後に、もう 1 点共有すべき情報は、TICAD の 3 本の柱が発表されている点である。1 . アフリカの成長と投資の加速化 (「元気なアフリカ」支援) 2 . アフリカにおける「人間の安全保障」の推進、3 . 「アフリカ発」の環境保全 (環境・気候変動) である。これらの柱からは、貧困削減を中心に据えているというメッセージは窺い知ることが難しい。また、MDGs は 2 . の人間の安全保障に含まれるということで、市民社会としては警戒が必要である。この点も含めて検討したい。

質疑応答

【会場】「アフリカ市民委員会について。アフリカ域内にネットワークは既にたくさんあるが、また作る必要はあるのか？」

【Joseph】「私の属する PELUM 自体がアフリカで作られた 200 団体のネットワーク組織。ネットワークキングの難しさと重要性は分かっているつもり。質問の趣旨は分かるが、色々なネットワークがどんどん出来るのは歓迎である。そのイニシアティブをネガティブにではなく、ポジティブに受け止めたい。アフリカ市民委員会はまだ出来たばかりなので、色々試行錯誤していきだろうが、多様なネットワークが今アフリカで胎動しつつある。これを否定する必要はない。いずれ大きな力につながっていく。」

【会場】「アフリカは歴史の創造物」

【Joseph】「このような協働もまた歴史の創造物」。我々としては、次の歴史に向って、将来に向って、平等なる尊厳と繁栄と一緒にエネルギーをあわせて創造していきたい。

【会場】「提言書づくりばかりに時間をかけて、立派な提言書があっても何も変わっていないのではないか？パブリックなプレッシャーが不可欠。2005 年の時と比べて、今回のオータナティブ・サミットではあまりアクションが見えないが。」

【Anke】「そう言われることは承知している。しかし、このようなアフリカ市民社会と協働の提言書づくりは初めての経験であり、貴重と思っている。また、我々は提言書ばかりつくっているわけではなく、デモをしたり、明日はコンサートもする。アクションも重要と承知している。」

コメント

【Rashid Al Mahmud Titumir (ActionAid International)】

- ◆ アクションエイドはいくつかの「P」を重視している。Power, Politics, Participation, People,

Perspective, Partnership である。「白人の重責」という言葉が流行っているし、「歴史の創造物」という言葉も出されたが、Negotiation (交渉) が重要なキーワード。

- ◆ 重要なのは、二重基準を排してピープルズ・パワーを作り上げていくことである。これは、世界中で行われなければならない。パートナーシップにおいて、我々は政府のアカウンタビリティを求める一方、下に向うアカウンタビリティが重要という大林さんの指摘は重要。
- ◆ なお、サミットの議題について語る際に、「誰の議題なのか? (Who's agenda?)」という点はよく考えたほうが良い。

【Tinashe Nhete (Practical Action)】

- ◆ ネットワークは、ナショナルレベルでも、リージョナルレベルでも多種多様なものがある。その正当性を明確に提示するためには、そのネットワークは役割を明示しなければならない。ネットワークが存在しなければならない理由が先にあり、それがネットワークを存在させるのである。
- ◆ アフリカ市民社会の問題は、外部資金に頼っている点である。内部からリソースを動員できていない。外部資金によってプロセスが進められてしまう。
- ◆ アフリカ市民社会は政策提言以上に、サービスの供給者である。政府に市民社会が言っていることを認められるためにまずはサービスでオルタナティブを見せる必要がある。これが真のオルタナティブである。

【林達雄 (ほっとけない世界のまずしさ)】

- ◆ 我々は、日本でホワイトバンドを普及させ、アフリカのことに関心を持ってもらおうと努力してきた。今日、アフリカの皆さんの話が聞けて嬉しい。アフリカの市民社会から学ぶことは重要である。

クロージング

【Joseph】

- ◆ 私は、今月末にガーナで開催される AU サミットにオブザーバーとして招待されている。そこで、アフリカ市民委員会の会合も開催するが、より多くのアフリカ市民社会組織あるいはネットワークとの連携についてもっと議論して来られればと考えている。

【大林】

- ◆ 今日のワークショップで、2007年にアフリカあるいはヨーロッパでどのような動きがあったのか、2008年に向けてどのような動きがあるのか紹介された。ボールは既に皆さんのところに投げられた。世界を変えていく種が蒔かれたといっても良い。皆さんそれぞれの持ち場でこの種を育ててほしい。